

「学校美術館」の試み

お気に入りの作品なのか、橋本平八《猫A》を友だち同士で何度も鑑賞する中学生、小林研三《私の家》の前に群がって会話が弾む小学生、帰宅後の我が子との対話に備え(?)作品をじっと見るお母さん…先日の「学校美術館」での光景です。

「学校美術館」は、子どもたちが本物の作品に身近に触れ、感動できる機会をつくりたいということを第一のねらいとして、今年6月、伊勢市の北浜中学校と久居市の桃園小学校の2校で試行的に実施したものです。収藏品15点余りを学校の体育館や会議室などに展示し、子ども



作品を鑑賞する子どもたち(桃園小学校)

たち・先生方・保護者・地域の方々にも鑑賞していただく、移動美術館の学校版と言えます。

通常の移動美術館と大きく異なる点は、展示内容に関して子どもたちが主体的に関わっているところです。例えば事前学習の中で、美術館が作成した鑑賞教材〈学校美術館カード〉を使って、子どもたちが展示候補作品を選定しました。また、校内や地域での広報用のチラシを作成し、実際に何箇所かに貼りに行くPR活動も担当しました。

鑑賞当日の子どもたちの予想以上に熱心な様子は、各学級や学校全体での事前学習への取り組みに負うところが大きかったのではないかと思います。これらを図工や美術などの一教科の活動とするか、総合的学習の一つとするかは学校にお任せしていましたが、いずれにしても先生方全員の理解と協力の元に成り立つものであることを実感しました。協力していただいた両校の全先生方、そしてPTAの方々にも深く感謝しています。

今回の試行を経て、来年度から県内の学校2～3校ずつで実施していく見通しが立ちました。作品の保護・管理等、課題は多々ありますが、本物の作品に子どもたちが目を輝かせ、多くの会話が広がることを楽しみに続けていけたらと思います。もちろんその中から、美術作品や美術館に興味をもち、将来美術館を訪れてくれる人々が増えることをも実は期待しているのですが。(Se)

「学校美術館」の事後学習における1分間スピーチより

ぼくは《街角(グルネル)》を選びました。写真の場合だと、じょうずだなあとしか思わなかったけど、実物を見ていっぱい思いました。建物を歩く人達の顔がふくらんでいました。この建物が桃園小学校に建ったと思いました。もう、ぼくがこの絵の中に入った感じでした。この絵が桃園小学校にあったらいいなと思いました。(5年生 川端航平さん)



桃園小学校にて